

< 職員による自己評価 >

< 保護者による評価 >

<p><u>A環境面</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室のスペースは概ね確保されている。 ・利用状況に応じて職員数およびその配置状況を適切に確保している。 ・完全なバリアフリー化されていないが、児童の活動場所はフラットな状態。 <p><u>B児童への支援内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント（調査・評価）に従い個人差を客観視し、適宜に複数人・個人プログラムを実行している。 ・活動プログラムが固定化しないよう多様性を持たせるよう常に留意し努力している。 ・障害のない児童との交流はコロナ禍ということもあり見合わせている。 ・当日の支援を事前の打合せにより確認し、支援終了後は当日の検証を行っている。 <p><u>C保護者への説明責任</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との面談による包括的な説明や連絡帳、電話等による説明を心掛けている。（その他、必要に応じて連絡している。） ・保護者会の開催による保護者同士の連携は行っていない。 <p><u>D非常時の対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時等の非常時に於ける対応マニュアルの整備は整えつつある。 ・「ヒヤリ・ハット」事例集は都度、書きとめて事業所内で共有している。 ・災害発生に対応した避難訓練を年2回実施している。 <p><u>E関係機関との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所前や通所後の施設との情報共有は一部できているが今後の課題として取り組まなければならない。 	<p><u>A環境面</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室のスペースは概ね確保されている。 ・職員の配置数、専門性について特に不満はない。 ・バリアフリー化されていない。 <p><u>B児童への支援内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習面のサポートおよび屋外での行動（散歩、公園での遊び、買い物練習等）があり、そのような工夫は良いと思う。 ・児童クラブ等での障害のない児童との交流はコロナ禍ということで見合わせている。 ・調理を行うことで、子供の自信につながっている。 <p><u>C事業所からの情報発信（保護者への説明等）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談等を通じ、支援の内容と利用者負担および日々の子供の状況とその課題については概ね共通に理解できている。 ・個人情報への注意はあるが、事業所の定期的な情報発信としてのPR活動（会報等）はない。その都度連絡は行われている。 <p><u>D非常対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生に備えた避難訓練の実施は認識されている。 ・新型コロナにおける緊急時（学校休校等）はきめ細かく対応してもらえた。 <p><u>E満足度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の立場に立った柔軟な対応がなされている。 ・子供が通所を楽しみにしている。 ・問題行動が落ち着いてきた。 ・コミュニケーションがとりやすくなった。
---	--



事業所内での分析

<p>【共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室のスペースは概ね確保されている。 ・児童支援の活動内容は比較的高く評価されている。 ・職員数および配置については適切である。 ・バリアフリー化は完全ではない。 ・障害のない児童との交流はコロナ禍ということで見合わせた ・避難訓練の実施は周知されている。 ・保護者会の開催による保護者同士の連携はない。 ・職員の専門性に関し、研修への参加や日々の話し合い、打ち合わせについて理解されている。 <p>【相違点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室のスペースが十分に広いと感じない保護者がいる。 ・緊急時対応マニュアルに対する認識。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・活動プログラム、内容については行っていることを理解してもらい、子供が通所を楽しみにしている等も含め保護者より高評価を得ている。
- ・養護学校の子供と支援学級の子供の交流の場となっている。
- ・継続支援により成果が上がっている。
(他害等の改善、コミュニケーション能力の向上、臨機応変に対応出来るようになった。決まったコースを一人で歩けるようになった。)

事業所の改善点

- ・緊急時のマニュアル類の整備。
- ・通所前、通所後の関連機関との情報共有が少なかった。
- ・保護者会等の開催がない。

事業所の改善への取り組み

- ・緊急時のマニュアル類について発信していく。
- ・通所前、通所後の関連機関に情報収集、情報発信を行っていく。(必要に応じ)
- ・保護者会等を開催し、保護者同士の連携の支援をしていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・保護者からの見方が自分たちの評価と違っていたことも多々あり、伝えることの難しさも感じた。
- ・継続支援により成果がでてきている。
(他害等の改善、コミュニケーション能力の向上、臨機応変に対応出来るようになってきた。)

事業所名 プレップサポートセンター保土ヶ谷

担当者 坂巻 紀宜